

としていたなんて、すごい連中だと思っていたのだ。結局彼はその力量と人望で委員長を引き受けたが、思いは、権力をとって社会を変えようとするのは異なる社会改造、つまりすべての人が主人公になる社会をなんとか実現できないか、というところに一貫してあった。ワーカーズがめざそうとしていたのは、その意味で本當の民主主義で、生きていたらアメリカのJ・デューイが一番喜んだことだったと思う。

打ち切られる中、新たに切り開く

金子勝 慶應義塾大学名誉教授

失対事業が打ち切られていく中、労働運動を新たに切り開いてこれたことは、とても立派なことだと敬意を払っています。

経営者の魂もつたアクティビスト

山本健慈 元和歌山大学長、元一般社団法人国立大学協会専務理事

同世代を生きてきた自分の足跡を読みながら振り返ったメモです。

・竹野、ふるさと・こども時代のこと。私は、



思いを記す永戸さん。右は菅野由喜子さん(7月10日)

1972年大学院修士課程に進学、先輩研究者たちと奥丹後教組、峰山、久美浜にしばしば行きました。池井保先生にも会ったと思いますし、豪放であったり、芸術的であったり、個人的で魅力的な人々と出会いました。古村義夫さんという名も聞いたか、会ったことがあるような気がします。池井先生は、つい先年まで「存命だったんですね」。

1972年大学院修士課程に進学、先輩研究者たちと奥丹後教組、峰山、久美浜にしばしば行きました。池井保先生にも会ったと思いますし、豪放であったり、芸術的であったり、個人的で魅力的な人々と出会いました。古村義夫さんという名も聞いたか、会ったことがあるような気がします。池井先生は、つい先年まで「存命だったんですね」。

・学生運動の時代。私は1967年京大入学。68年春、教養部自治会副委員長、秋委員長。東大闘争もあり、京大闘争もあり。この時代、京都府学連執行部が崩壊、70年3月京大から私、立命から小畑力人が出て府学連再建(小畑委員長、山本書記長、70年8月小畑、山本、全学連中執。71年3月山本書記長、中執退任。72年大学院進学。永戸さんとは、すれ違いですね。

・協同総研設立に関して。91年ということですね。私は88年無認可アトム共同保育所に出会い、「共同」「協同」を深めることになりました。85年からはじめる子育て・文化協同研究会(国民教育研究所「地域と教育」部会の新たな展開)から参加し、この集いを93年12月和歌山でやりました。池上惇、黒川俊雄などなどの参加があり、ここで私は、なまの労働者協同組合に出会ったでしょうか。94年1月の『協同の発見』に集会報告を書きました。

・労働者協同組合法の制定。この時期私も在京で、国立大学議連で世話になった河村建夫氏の紹介を山本氏、古村氏などに頼まれ、資金パーティなどに一緒にしたことも思い出します。・「大衆運動的経営者」。私は「社会教育実践的 大学経営」と言ってきました。経営手法として、参加、共同学習、そして市民社会とつながる社会運動。

「感想を」の依頼に応えてくれました。人との関係性において成長、発達

・いま振り返って自己規定をすれば、アカデミズム魂をもったアクティビストということかと思っています。貴兄でいえば、アクティビスト魂をもった経営者。経営者の魂をもったアクテ

小林裕子 元労働連総務部長

大変雑駁な感想で恐縮ですが、感じたままを送ります。

第一章 少年時代

・京都の丹後・久僧での思い出は幾度となくお話を伺った記憶があり、実際に何度か丹後の永戸邸にもお邪魔したことがありますので色々と思ひ出されました。

戦争疎開者としての複雑な気持ちで地域の方々や同年代の子供たちとも暮らしておられた事は私には想像もつかないことです。しかし、70年以前の事をよく覚えておられると同時に、その時にどんな気持ちであったかとか、相手はどう言っただろうとしたとか、本当に細かなことまで記憶されていて凄いです。その頃から既に反骨精神というか、何が正しいのか?ということに常に考え行動に移されていたことが流石ーだと思いました。

また、商売人の子供として育ったということが今の経営感覚の根本にあり、ご両親のDNAかとも思われるのですが、地域の人たちが常に自宅に集まって話し合っていたということも、その後の活動の基本のマインドとしてあったかと感じました。

第二章 学生運動時代

・高校生で農業を経験し、大学に8年通い、アルバイトのご経験も豊富で、さまざまなエピソードをお持ちですが、全学連でのポリシーは一貫しておられたことにあらためて「そうだったのか」と感じました。

私には全く未知の世界で、全学連も全共闘もみんな一緒にゲバルト棒を振りかざしていたのかと思っていました。違っていたんですね。永戸さんの頭脳における「真実は何か?」を見出すプロセスに更に磨きがかかった時代のよう

感じました。

イビストということでしょうか。・ご息をなくされたとか。そした私生活での経験や学びを社会、歴史に還元されていることに敬意を表します。

第三章 全日自労・事業団時代

・中西五洲さんには私も何度かお目にかかってはいますが、お人柄については全く存じ上げませんでしたが、やはり失業対策や事業団運動は中西さんがリードしてこられたと思いますが、中西五洲を超えてセンター事業団を立ち上げたことは永戸さんにしかできなかったことではないかと思えます。

物事を深く深く考えて真実に向かうと同時に、そこから広く広く考えて将来像を描く。手持ちの駒を最大限活用して道筋をつけ、一つ一つの駒が化けてさらに広がりを見せるという永戸マジックがここから始まったのかと感じました。

第四章 労働者協同組合時代

・センター事業団という土俵が出来てからは、池山さんをはじめ富士国際旅行社から移籍された方々、菅野さん、野寄さん、黒川先生、お名前をあげたらきりがありませんが、多くの方々の知恵や力を合わせて、経営面でも運動面でも理論的にも大きく飛躍した時代だと感じます。

ただただ事業高を伸ばすということにとどまらず、「現場に籠るな」と映画上映運動をはじめたり、介護保険制度を見据えて全国でヘルパー講座から地域福祉事業づくりへと提起したり。全国で200を超える地域福祉事業所が立ち上がり、指定管理者制度に向けてはプレゼンの経験を積んで「よい仕事」と「地域を結んで」事業の質も幅も拡がり組合員も大きく成長しました。

永戸さんの10年先を展望して考えること、機を見るに敏であることが相まって、組織としても飛躍した時代だと感じました。

第五章 協同労働の協同組合時代

・法制化に向けて自分たちの労働をどう定義するか? 一般企業の経営者は労働を定義するなんて考えもしないと思えます。

やはり自分たちに見合った法人格が必要だと考え、島村さんを迎え、「要綱案」をたたき台に

全組合員で議論しました。協同総研を中心に学者先生や労働問題に詳しい方々、ワーコレのリーダーからも意見をもらい、何度か修正を重ね、それを手に衆参議員会館へも多くの組合員で活動しました。私も労働者に居なければ議員会館へ足を運ぶことなど無かったと思います。いい経験になりました。

第六章 「協同労働の協同組合」法制化運動

・2000年の市民会議立上げから20年後の12月4日に成立した「労働者協同組合法」。私もずっと関わって来たので本当に感無量でした。国会中継で山東明子議長が「全会派賛成で本案は成立しました!」と宣言されたときには鳥肌が立ちました。

法案成立に向けて、これまで積み上げてきた議員との繋がり、長年のロビー活動など機は熟していたのかも知れませんが、やはり、榊屋議員と山本幸司さんのお力は大きかったと思います。それまでは遅々として進まなかったことを考えると本当に驚きました。きつと天国からも応援してくれた方々が沢山いたのだと思います。

第七章 これから

・永戸さんもお考えのように、これからが真に協同労働の協同組合が問われる時代に入ったと思います。世界情勢の今後を見抜く力、日本の行く末、トッパーリーダーの覚悟や、リーダーの地域と協同する力が益々重要になって来るような気がします。私たち高齢者も地域や社会に貢献することが求められていると考えます。

永戸さんの卓越した才能と判断力、行動力、説得力、先見の明……労働運動は永戸さんがつくって来られたと言っても過言でないと思えます。

永戸さんの今日までの足跡を丁寧に辿り、時代背景も正確に記述されて、松沢さんの根気とご尽力には頭が下がります。素晴らしいものを残して下さったと心から感謝します。

登場人物の中には存じ上げる方々も多く、その時々を思い出しては懐かしく感じました。人間は人と人との関係性において成長、発達するのだとあらためて感じました。読み物としても大変面白かったです。

(写真 学生集いは永戸亮さん提供、他は松沢常夫さん「労働新聞」撮影)